

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472100914
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム虹の会
事業所名	グループホーム虹の家
訪問調査日	平成19年6月19日
評価確定日	平成19年8月21日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1472100914		
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム虹の会		
事業所名	グループホーム 虹の家		
所在地 (電話番号)	神奈川県鎌倉市稲村ガ崎 4-5-19 (電話) 0467-61-2811		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年6月19日	評価確定日	平成19年8月21日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	19 人	常勤 4 人, 非常勤 15 人, 常勤換算 8.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造ALC準耐火 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	41,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(1,100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖テレジア病院/山下・ごとう小児科内科/高橋内科クリニック/田中歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は最寄り駅から徒歩5分の緑に囲まれた住宅地に立地している。主に1階が共用スペースで2階に居室がある。また、エレベーターが設置されている。管理者をはじめ職員は明るく、高齢者と同居している家庭を訪ねたような雰囲気がある。

准看護師、栄養士、調理師、介護福祉士、社会福祉士など人材が豊富で、看護師である代表者と管理者も日々のケアに携わっている。理念に基づいた入居者の意向に添ったケアが行えるよう、基準を上まわる人員の配置に努めている。ターミナルケアを行なった実績がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果はスタッフミーティングで職員に周知している。課題の「確実な申し送り」については、確実に行えるよう業務日誌に確認欄を設けるなどの改善をしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員全員が評価項目を事前に読み、スタッフミーティングなどで検討を重ね、職員がまとめ管理者が確認している。自己評価を通じて、利用者の思いや意向の把握を引き続ききめ細かく行なっていく事や、職員の休憩場所の改善など「出来ていること、やらなければならないこと」の具体的な気付きを得た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回行われ、現在までに3回開催している。自治会長、市の職員、家族、事業者代表、管理者が参加し、事業所の見学や現況等の報告が行われている。自治会長から「自治会と事業所共同の防災訓練の開催」が提案されている。今回の評価結果について報告を行う予定である。 運営推進会議の開催により、市の担当職員と身近になった。今後も鎌倉市のグループホームのネットワーク作りの推進に努める意向である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	個々の健康状態や暮らしぶりについては手紙で、事業所全体の様子は写真を交えた「にじのたより」で毎月家族などに伝えている。家族が来訪の際に、家族の意見や不安を聞き取ったり、預かり金の確認や職員変更の報告をしている。 苦情相談受付窓口のポスターを掲示し利用者や家族などに知らせている。意見箱の設置、懇親会等での意見聴取で、家族の意向を運営に反映するよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、初年度は連絡員として活動している。 近隣の幼稚園とは、誕生会に利用者が訪問したり、園児が来訪して歌を唄う等の交流がある。近隣の人が織物教室の講師のボランティアとして来訪してくれる。また、近隣のギャラリーで、織物や俳句、習字など、利用者の作品を展示した作品展を開催し、地域の人々と交流している。 利用者が出かけてしまった際は、近隣の人から知らせてもらうなど、協力が得られる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく、安心して家庭的な生活を心豊かに過ごす事ができる場を提供すると共に、地域の福祉の向上に貢献する」という、法人の理念を掲げている。法人の事業所は当事業所のみで、この理念は、事業所独自の理念でもある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、全員参加が原則の「スタッフミーティング」で理念に触れ、職員に話している。理念を事務室に掲示し、職員は理念を貼付したメモ帳を携帯している。基準より1名多い人員配置にし、理事長・管理者は、自らもケアの現場に携わり理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、初年度は連絡員として活動している。近隣の人が織物教室の講師のボランティアとして来訪してくれる。近隣に幼稚園があり、園児の誕生会に利用者が訪問したり、園児が事業所を来訪して歌を唄うなど、交流している。近隣のギャラリーで利用者の俳句や習字などを展示した作品展を開催し、地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己及び外部評価の意義は、スタッフミーティングで話し合っている。今回の自己評価は、職員全員が評価項目を事前に読み、スタッフミーティングなどで話し合い職員がまとめ、管理者が確認した。前回の外部評価結果はスタッフミーティングで職員に周知し「確実な申し送り」の改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回行われ、現在までに3回開催している。自治会長、市職員、家族、事業者代表、管理者が参加し、事業所の見学や現況などの報告が行われている。今回の評価結果報告を行う予定である。自治会長から、自治会と事業所共同で防災訓練を開催することが提案されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の受け入れを19年7月27日より行なう。受け入れに際し、市の担当者とも連携を図っている。運営上の不明な点がある場合や書類を提出する際には、市役所に出向いて担当者と交流する機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の健康状態や暮らしぶりについては手紙で、事業所全体の様子は写真を交えた「にじのたより」を発行し、毎月家族などに伝えている。預かり金は1ヶ月を目安に、家族が来訪の際に「小遣い帳」と領収書で確認してもらい押印してもらっている。職員の変更は「にじのたより」や家族が来訪の際に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所と外部機関の苦情申し立て窓口を記載したポスターを掲示し、契約時には重要事項説明書で利用者などに説明している。「にじのたより」で意見を呼びかけたり、意見箱を設置したり、懇親会で家族の意見を聞き取り、運営に反映するよう努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の事業所は当事業所のみで、異動は無い。担当制をとっているが、定期的にローテーションをすることで馴染みの関係を固定せず全ての職員が馴染みの関係になれるように努めている。新しい職員が利用者と十分に馴染んでから担当にし、利用者の不安解消に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「回想法」などの内部及び外部研修に職員が参加している。「ターミナルケアの実践研修」を行った。これは、当事業所でターミナルケアを行った際に、職員の研修を同時に行ったものである。スタッフミーティングで報告して研修内容を共有し、報告書をファイルしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のNPO法人ケアマネージャー連絡会へ参加し、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修や会議を通じて交流している。他事業所の職員が当事業所主催の回想法講習会に参加したり、ボランティアとして来訪してもらうなど、交流している。同業者とのさらなる交流が図れるよう今後も鎌倉市のネットワーク作りに取り組む。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談を家族から受け、本人と面談し、不安や思いを受け止める機会を作っている。その後、見学に来てもらい入居を決定している。夜間せん妄の利用者は、ケアマネジャーが泊まり、状況を観察しながら服薬の調整をした事例がある。また、家族と相談し、安心するまでは利用者が家族に電話をするなど、馴染める工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の特技や趣味を把握している。利用者から梅干作り、俳句の季語、着物やゆかたの着方、歴史上の事を教えてもらい、感謝するなど、利用者から学んだり支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者会議で「今年はどうな事がしたいか」を話し合い「句会を開く」「歌えて楽しい」「運動をしたい」などの意向を把握している。把握が困難な場合は、表情を汲み取り、検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族からは来訪時や懇親会などで、利用者からは日々の関わりの中で、思いや意見を聞き、介護計画に反映している。「ケアプラン立ち上げシート」を利用し、スタッフミーティングで話し合い、介護計画「グループホームサービス計画書(1・2)」を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し期間は3ヶ月となっている。状況変化がある場合はその都度行っている。定期見直しは「ICFによるアセスメント表」と「基本的介護計画」を作成し、現状に即した介護計画書を作成できるようにしている。「グループホームサービス計画書(2)」に家族の確認・了承の押印がある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携に努め、利用者ごとの提携病院や提携歯科医院などを明確にしている。ターミナルケアを行なった。近隣の自宅で暮らしている認知症の人を対象に、事業所はショートステイの併設を検討している。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約書に「利用者に主治医または事業者の協力医療機関において必要な治療などが受けられるよう支援します」と明示されている。利用者の以前の受診経過や現在の受診希望を把握し、家族と相談のうえ症状や診療の必要程度に応じて提携開業医、提携病院、訪問診療の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が安心して最後を迎えられるよう、主治医・家族・職員が常に話し合い、ターミナルケアを行った。看取りの際は提携開業医から協力を得る。重度化した場合の指針を設定した。現在、家族の意向を確認するアンケートを実施しており、順次ターミナル期のマニュアル作成や同意書の説明を行う予定である。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の際は「ちょっとこちらへ」などの言葉かけを行ない、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。個人情報の取り扱いについては、スタッフミーティングで職員に徹底している。夜間事務室に人がいなくなる時は、書類を施錠して保管し、申し送りでは個人名は出さず、アルファベットを使う配慮をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム1日の流れに「思い思いに過ごします」と記されている。好きな時間に起きる、就寝前の入浴、朝夕2回の散歩など、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。「居室に1人でいたいのが落ち着かない」という入居者には、特製のCDを作成し好みの歌を歌ったり編み物ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビが消され、職員は、見守りや会話をしながら利用者と一緒に同じ食事をしてきた。好みに合わせて献立を工夫したり、寿司の出前や好みのお弁当を購入するなど、楽しめるよう工夫している。家事を希望する人が多いため、入居者と話し合い家事当番表を作成している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるようにしている。毎日お風呂を沸かし、15～17時頃に3名程が入浴している。その他の時間でも、希望があれば入浴できる。希望しない利用者には、言葉かけをする職員を変えたりしている。言葉かけを聞いた利用者同士が促して、入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す場面では、分別して広げる、ハンガーにかける、竿に干すなど一人ひとりの力を活かした役割の支援をしている。生花の師範だった利用者に花を生けてもらう等の生活歴を活かした支援をしている。毎日歌を唄う他、織物教室やピアノミニコンサートなどのボランティアを受け入れ、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買物に出かけている他、喫茶店で甘味を食べる、季節の花見や外食、ドライブなどに出かけている。デパート、カラオケサロン、教会など、個別に出かけることもある。利用者が散歩に出かけたり、車椅子で外気浴をしていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していない。玄関は、利用者が戸締りを心配する事と外部からの侵入防止のため施錠しているが、内側から開錠できる。利用者が出ていった際に、商店や近所の人から連絡をもらえる関係を築いている。網戸に鈴を付け、玄関が開かれており職員は外出の傾向をつかんで対応していた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「災害時対応について」のマニュアルがある。日常は階段を使用しない利用者も階段を下りてもらうなどの防災訓練を年1回行っている。消防署や近隣に住む職員、顔馴染みの商店から協力が得られるよう働きかけている。自治会長から防災訓練共同開催の提案があり、今後検討する。水や乾パンなどを備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量は「個人記録一覧表」で把握している。水分量は1日1000ccを目安に、把握の必要な利用者のみ記録している。栄養バランスは、看護師が大まかなチェックをして、3ヶ月を目安にパソコンソフトを利用し確認している。食事制限のある利用者にはローカロリー甘味料を使用するなどの配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、洗面所、居間には、利用者などが活けた花が飾られ、季節感が取り入れられていた。利用者が摘んだよもぎで草もちを作るなどの取り組みが行われている。共用の空間は、適度な光が差し込み、窓の開閉で換気に努めるなど利用者が居心地よく過ごせるよう配慮していた。また、設備などは一般家庭と変わらないものであった。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「入居時にご確認ください」の書面で入居の際は使い慣れた物を用意することを伝えている。桐だんす、整理だんす、仏壇、椅子、テレビ、写真などが持ち込まれていた。混乱を生じさせる物は家族と相談し整えている。就寝の妨げにならぬようクーラーの吹き出しに配慮するなど、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム虹の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県鎌倉市稲村ガ崎4-5-19
記入者名 (管理者)	山口 いね子
記入日	平成 19 年 5 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「虹の会は、認知症のために自立した生活が困難になった利用者が、その人らしく、安心して家庭的な生活を心豊かに過ごすことができる場を提供すると共に、地域の福祉に貢献する。」という理念には、必ずしもこの地域の出身者ばかりではない全ての入居者がこの地域で自分らしく暮らし続けることが出来るよう最善を尽くすという意志が込められている。		・自治会長さんからは、「虹の家は充分地域にとけ込んでいる」と評価して下さっている。入居者一人一人が自分の居場所として安心して生活していただけるよう、引き続き地域の方々との良好な関係作りに努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を貼ったメモ帳を理事長が用意し、職員は日々理念を確認しながら業務に当たっている。 ・事務室の壁には理念を掲示し、常に確認出来るようにしている。 ・その人らしい生活を続けていただくために、毎日ミーティングでは個別のケア内容、ちょっとした変化などについて確認、検討している。 ・日々の気付きやケア実践の積み重ねを理念に基づいて介護計画に反映させ、サービス提供に活かしている。		・引き続き左記の取り組みを継続し、より充実したものとしていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・創立三周年を記念して作品展を地域のギャラリーで開催した。地域のボランティアの講師の指導による作品などを展示し、地域の幅広い方々に事業所がどのような理念に基づいて活動しているかを直接お伝えする良い機会となった。会期中は入居者も会場にて地域の方達と交流出来た。その後の散歩などで出会った際の地域の方達とのコミュニケーションは格段に円滑になった。		・地域のボランティアが開催するバザーへの参加を予定している(19年秋)。 ・日々の散歩で地域の方達と挨拶するなどの交流は引き続き深めていきたい。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・近隣幼稚園の誕生会に招待していただいている。毎日の散歩でも園庭で遊ぶ園児と交流している。 ・散歩中地域の方と出会った際には職員が率先して挨拶し、入居者と地域の方達とが自然に交流出来るようにしている。 ・玄関前に花を植えるなど、道行く人と入居者が玄関先で気軽に会話出来るよう話題を提供している。 ・近所の方が織物教室の講師をして下さっている。		・近隣の幼稚園との交流については、こちらから訪れるだけでなく、例えばお散歩の途中に園児達が気軽に立ち寄ってもらえるような、双方向の交流を図る。(5月14日園児が10数人来て歌を歌ってくれた。以後も継続していきたい。) ・織物教室の活動は継続していく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入している。初年度は連絡員を1年間引き受けた。 ・地域のお祭りではお神輿がわざわざ事業所の前を通って下さり、全員で見物した。 ・地域に長年住む方を複数職員として雇用していることにより、より地域住民や商店の方達との関係がスムーズになっている。		・地域のボランティアが開催するバザーへの参加を予定している(19年秋)。 ・近所の幼稚園のバザーでは、昼食にカレーやデザートを買ってきて食べるなど協力している。楽しめる入居者には一緒に会場に行って雰囲気を楽しみ交流していただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・近所のギャラリーで作品展を開催し、事業所が日々どのような活動をしているかを理解していただくことができ、会場へは近所の方が高齢者の暮らしについて話をしに立ち寄られた。</p> <p>・幼稚園と交流し、園児が高齢者と触れ合う機会を提供している。</p> <p>・地域介護支援機構、ケアマネ連絡会議、NPOセンターなどに加入し、情報交換に努めているほか、認知症介護家族の会に加入している職員もいる。</p>	<p>・近隣のお年寄りが気軽に立ち寄れるような雰囲気作りをしたい。</p> <p>・お祭りや地域のバザーなどに積極的に参加していく。</p> <p>・運営推進会議を活用して、多方向から事業所の活動やその成果を地域に伝えられるよう努める。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・職員全員が自己評価項目を事前に読み、夜間のミーティング(4月26日)の参加者全員で各項目について話し合った。終わらなかった部分は毎日の日中のミーティングで少しずつ検討した。</p> <p>・職員が各項目について一人一人考え、出来ているところ、やらなければならないところが、具体的に理解出来た。</p>	<p>・評価結果も一人一人の職員に周知し、理念の実現や日々のケアに活かせるようにしたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・3ヶ月に一度会議を開催している。ご家族も持ち回りでの参加に協力して下さっている。</p> <p>・自治会長さんからは、自治会と事業所が共同で防災訓練を開催するなどの提案をいただいている。</p>	<p>・引き続き地域と事業所との相互理解、協力のための具体的な意見交換が出来るよう取り組む。</p> <p>・職員も勤務の都合を調整して、交替で運営推進会議に参加できるようにする。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・運営上不明なことについては速やかに市役所に相談している。</p> <p>・書類は郵送せずなるべく市役所に直接持参するなどして、行き来する機会を積極的に作っている。</p>	<p>・左記継続</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・運営者は権利擁護に関する制度について研修などを通じて理解し、研修報告の形で職員に周知している。</p>	<p>・知識のある職員(社会福祉士)による勉強会を実施した(5月25日)。引き続き職員の学習を続ける。</p> <p>・現在成年後見制度を利用している利用者は2名であるが、他の利用者についても今後必要になった場合に利用者や家族に適切な情報提供ができるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・虐待がないように、職員相互に注意し合って日々のケアに当たっている。</p> <p>・ゆとりある人員配置により、職員が虐待につながるような過度の緊張状態に陥ることがないよう配慮している。</p>	<p>・高齢者虐待防止関連法について勉強会を実施した(5月25日)。引き続き職員の意識の向上に努める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時は重要事項説明を丁寧に行い、事業所で出来ること、できないことを明確に説明している。 ・契約時においては利用者の立場に立ち、将来のことを含めて疑問等を引き出し、それらに対して十分な説明をしている。 ・契約の改訂は開設以来行っていない。 ・契約解除に際しては、十分な説明と話し合いの上で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは契約に関連して利用者、家族とのトラブルが生じたことはない。これからも誠意を持って対応していく。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱を事業所の運営規程、苦情申し立てについての説明文と共に玄関の下駄箱の上に設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで意見等が出されたことはないが、意見が出にくい状況である場合もある。より意見を出しやすい環境作りを引き続き模索していく。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1度前月の健康状態や暮らしぶりについて、一人一人の詳しい様子やエピソードなどをお手紙で伝えている。 ・事業所全体の様子を写真を交えて月に一回「虹のたより」で伝えている。 ・家族の来訪時には、入居者の近況を伝え、金銭の使用状況などを確認していただき、ご家族の思いを伺っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族懇親会を開催した(11月)。 ・月々のお便りをお送りしたり、催し物へのお誘いをするのはご家族の代表の方だけだったが、ご家族の了解を得て代表の方以外のご家族にもお便りをお送りしたり催し物へ参加する機会を増やした。 ・看取りの際に、ホームが責任を持つことがホームに過剰な負担にならないかと心配して下さった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族懇親会を開催し、家族同士の意見交換、職員と家族の交流の機会を設ける。 ・電話、面会など家族と接する際は常に、十分なコミュニケーションが持てるよう心掛ける。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝、昼に当日勤務者のミーティングを行っている。 ・月に2回(5日前後と25日前後)全員が対象のミーティングを実施している。通常は日中(昼食後の時間帯)、月に1回程度近所に会場を借りて夜間2～3時間かけてじっくり話し合いを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当制をとってはいるが、定期的にローテーションすることで職員と入居者のなじみの関係を個人に固定せず、全ての職員がなじみになり、どの時間帯に誰が勤務しても適切な対応ができる様になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤の看護師がなるべく一人は毎日日中在勤出来るよう勤務の調整をしていきたい。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は法人に一つなので異動による職員の変更はない。退職者も少ない。 ・新入介護職員に対して混乱が予想される入居者に対するケアを行う際は、旧来の職員が応援に入るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がなじみの職員による支援を受けることができるよう、運営者は離職等職員の異動を最小限に抑える努力を今後も続ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・非常勤職員も勤務状況と年数等に応じて随時研修に参加している。</p> <p>・研修に参加した職員は、次のスタッフミーティングで研修報告をし、報告書はファイルして、いつでも誰も見られるようにしている。</p>	<p>・利用者の状況の変化に応じて、ケアに求められる知識や技術は日々変化している。例えば2月のターミナルケアの実践では、実践と勉強が同時進行したが、結果としてそのことが大変有意義な学びとなった。必要に応じて必要な知識や技術を運営者が指導し、疑問点は皆で検討する態勢を今後も続けていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・神奈川県グループホーム協議会に加入し、運営者が研修、会議等に参加している。</p> <p>・鎌倉市にはグループホームのネットワークがないため、今後作っていくよう、運営推進会議等で運営者が提案している。</p> <p>・以前当事業所が開催した回想法講習会に参加した市内の他のグループホームの職員が、当事業所のグループ回想法に毎回ボランティアで参加して下さっている。</p>	<p>・市内のグループホームのネットワーク作りの働きかけを今後も続けていきたい。</p> <p>・同業者間の職員の相互交流の機会を増やし、一緒に勉強していける態勢を作っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・運営者は、日常的に職員と話しをし、各自のストレスやその背景を理解するよう努めている。</p> <p>・職員が、入居者と離れ一息入れる休憩の時間や居場所について、職員の意見を聞きながら配慮している。</p>	<p>・職員の休憩場所と事務所が共同なので、やや手狭である。改善を検討中である。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・運営者は関連法規を遵守して職員の労働条件の整備、就業規則の作成、施行、健康診断受診の徹底等職員の心身の健康管理を行っている。</p> <p>・運営者は自らもケア現場に出ており、現場の状況や変化、職員の努力や成果を把握している。</p>	<p>・左記継続</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用者本人が認知症であるため、初期の相談は家族から受ける場合がほとんどであるが、運営者は必ず本人と面談し、本人の思いや不安などを受け止める機会を作っている。</p> <p>・入居当初夜間せん妄のある方には、ホームのケアマネが2週間程度特別に泊まり、側に付き添い、見守り、言葉をかけ、状況を観察しながら服薬の調整などをした。</p>	<p>・左記継続</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・本人の思いや不安とは別の立場や視点から本人にまつわる問題を捉え、悩んでいることを理解しながら話を聞いている。</p> <p>・運営者は認知症ケアの専門職として、自らの看護師経験もふまえながら親身に相談にのり、サービスについての知識が少ない家族には丁寧に説明をしている。</p> <p>・介護者は、家族が身内を施設に預けなければならないことに心の傷を負っていることを理解して、ケアに当たっている。</p>	<p>・左記継続</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用希望者のニーズを様々な角度から慎重に検討している。 ・事業所に空きがなく、具体的なサービス提供に結びつかない場合にも、誠意を持って相談に乗り、入居待ちをお願いしたり、他のサービスを紹介したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人とご家族に見学に来ていただき、居室の間取りや周辺環境を本人が気に入って入居していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長い年月を生きてきた方達への尊敬の念を持って接するよう、特に言葉遣いには十分に注意している。 ・認知症であってもふと現れる頼もしさ、優しさ、思いやりの心などに接し、日々感謝しながら接している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続。 ・言葉遣い、コミュニケーションの仕方など、人と接する上で基本的な事項については、日々のケアの中で一人一人の職員が自覚すると共に、お互いに気を付け合っていく。実際のケアの場での自らの姿を客観的に検証するため、録音機の利用によるコミュニケーションの学習も検討している。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居当初だけでなく、家族とは折に触れて本人についての現在、過去の情報をやりとりし、ケアの充実に結びつけるよう心掛けている。 ・家族と職員との懇親会を開催(18年11月)し、職場を離れたくつろいだ雰囲気の中で、交流を深めた。 ・新しい入居者が環境になれるまで何度でも自宅への電話を受け入れていただき、本人も安心して落ち着かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と職員との懇親会を開催予定。いつも接している職員が現在の様子を家族に伝え、家族から本人の以前の様子をうかがうことにより、本人と家族とのよりよい関係を目指す。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスには仮装大会を実施し、本人、家族、担当者がチームとなってそれぞれテーマを選び、趣向を凝らした仮装を披露した。 ・家族との関係が疎遠になっている方は現在のところいらっしゃらない。遠方のご家族にも、毎月ホームでの様子を手紙で伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏にゆかたを着る会を開催予定。着物は、普段着衣が困難な方でも上手に着ることができ、ご家族も大変喜ばれる。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以前入居していた施設の職員や、大学時代からの友人が遠方から尋ねて下さったりしている。 ・本人との会話の中に登場する個人について、その方が本人にとつどのような意味を持つ方なのか十分に理解し、その方との思い出を振り返ることで本人が幸せを感じることができるよう支援している。 ・来訪者が最近本人に接していない場合には、認知症について十分に説明し、円滑なコミュニケーションが図れるよう考慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の交流についての支援はもとより、本人の心の中にあるなじみの人や場所を思い出すことにより、本人の心の安寧を支える支援ができるよう努めている。今後も継続する。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食卓では仲の良い方同士が会話を楽しみながら食事ができるよう席順を配慮している。 ・車椅子の方が移動するときに、職員が付きながら元気な方に車椅子を押していただき、支え合いの気持ちのきっかけ作りをしている。 ・入居間もなく不安を訴えている方と、話し相手ができる方とが会話できるよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な身体機能、精神状況の方達の共同生活であることを、入居者ひとりひとりが(何となくでも)理解し、お互いに思いやりの気持ちをもって一緒に生活していくことができるよう、支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		<p>・左記継続</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		<p>・引き続ききめ細かく取り組んでいく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		<p>・左記継続</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		<p>・引き続ききめ細かく取り組んでいく。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		<p>・今後はご家族とも介護計画について話し合いを持ってたり、医師との話し合いなども定期的に持てるようにしていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		<p>・ICFの視点を採り入れたアセスメントについては、全職員が十分に理解し、実施出来るよう、引き続き運営者が随時指導していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・勤務毎に記録担当を分担し、責任を持って当日の記録を行うようにしている。遅番、夜勤者は全員の記録を行う。</p> <p>・健康状態や服薬状況など、最低限共有すべき情報については事務所内のホワイトボードに一覧掲示し、必要に応じて書き足して情報を常に更新すると共に、職員全員が一目で確認出来るようにしている。毎月前月分の記録をまとめて読み返し、ご家族へのお手紙にまとめる作業を通して、次の介護計画や日々の実践に反映させている。</p>	<p>・ホワイトボードの内容を必ず確認すること、情報は常に最新且つ正確なものに更新することを徹底していきたい。</p> <p>・介護計画への日々の記録の内容の活用の精度を上げていきたい。</p>
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・介護保険給付を利用してドライブに行ったり、喫茶店でお茶を飲んだりしている。</p> <p>・近所のボランティアの講師が趣味活動(織物、絵画など)に来て下さったり、行事の際には多くの職員がボランティアで協力するなど、自主サービス(歌のサロン、カラオケ等)を柔軟に提供している。</p>	<p>・これからもきめ細かく取り組んでいく。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>・地域の消防署と連携して防災訓練を実施している。</p> <p>・運営推進会議を実施している。</p> <p>・近隣の幼稚園と散歩などを通じて日常的に交流したり、誕生会に招待されたり、園のバザーでは昼食にカレーをとるなど協力している。</p> <p>・近隣の中学・高校の生徒の体験学習を受け入れている。</p>	<p>・左記継続</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・現在のところ、事業所以外のサービスとつなげる必要が生じた事例はない。(認知症グループホームが提供するサービスの性質上、他のサービスを利用することは困難であるという側面もある。)</p>	<p>・今後必要が生じた場合には、事業所以外のサービスや介護保険外のサービスの利用、より充実した支援に結びつけるべく、外部のケアマネジャーや地域包括支援センターなどと協働していきたい。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・現在のところ地域包括支援センターとの協働事例はない。</p>	<p>・運営者が近隣の地域包括支援センターに顔を出して将来の協働に備える。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・一人一人の利用前の受診経過、現在の受診希望を把握し、症状や診療の必要程度に応じて、家族と相談の上、近隣の提携開業医や提携病院、訪問診療による受診の支援をしている。</p>	<p>・受診時の通院介助は、事業所が行っている事例が多く、家族への情報の伝達についても、個別にその都度連絡している。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題のある方は提携病院の精神科に定期的を受診している。それ以外の方でも問題が生じれば受診できる環境にある。 ・提携の開業医も予防接種に来所していただいている。転倒時の傷の処置も時間外に快く診ていただいている。 ・訪問診療の医師も、認知症に理解のある医師、認知症を受け入れられる病院と連携の摂れる医師を選んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・左記全て継続していく。 ・緊急時に対応していただける医療機関の情報などを整理しておく。
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員2名(常勤)が看護師で、常に入居者の健康管理に当たり、勤務していないときでも24時間、いつでも気軽に電話で相談ができる。 ・服用中の薬の一覧表も分かり易くできている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応について(発熱時、転倒時、嚥下困難など)全職員が理解、実践出来るよう分かり易くまとめ、勉強会を開くなどしていく。
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には職員も同行し、医師の説明の時は家族が許せば同席し、必要事項について説明している。 ・場所が変わって不安な入居者には、症状が安定し状況が許す限り早期に退院していただき、ホームでの生活に戻っていただいている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアについては職員全員で勉強会、会議を実施し、「重症化した場合でも、ご本人ご家族の希望があれば、医療に依存せず、自然体で最期を迎えられるよう介護する」という指針を設定した。 ・ご家族の意向を確認する簡単なアンケートを作成した。6月以降ご家族に対して実施する予定である。 ・個々のかかりつけ医には、当事業所の方針について話している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続 ・6月家族へのターミナルのアンケートの実施
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記理念に基づき、支援に取り組んでいる。 ・ターミナルケアについては勉強会を開催している。 ・近隣の提携開業医とは、看取りについて協力の了解を得ている。 ・ターミナルケアに関する同意書を作成している。 ・ターミナル期のケアマニュアルを作成中である。 ・3月2日には主治医とご家族と常に話しあいを持ちながら虹の家で自然体の最期を迎えることができ、ご家族からも大変に感謝された。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケアマニュアルを作成する。(今年度中)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅から入所した場合、職員同士十分に話し合い、ご家族とも本人の情報を交換している。 ・他のグループホームから入所した場合には、可能な限りその方の生活の仕方、生活歴について情報を提供していただいた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・左記継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>・より適切な言葉遣いや対応を目指し、接遇についての勉強会を開催する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・本人が一つのことが気になって他のことが手に付かなくなる場合も、ねばり強く同じお答えをしたり、ご家族がいらっしゃる日を自室のカレンダーに記入して頂いたり、食事中は附箋に分かり易いメモを作成して食卓に置き、それを見ながら安心して食事ができるようにするなど、本人の自尊心を傷つけないようにしている。</p> <p>・折り紙の色や、塗り絵の柄など、好みの物を楽しむ機会を作っている。</p> <p>・外出するときには、お弁当をご自分で選んでいただく。</p>	<p>・選ぶことにも混乱が大きい方が多いが、少しでも何かを選べるような場面を探していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・朝は好きな時間に起きる。みんなで一緒に食事したい人は食事時間に間に合うように起きていただく。</p> <p>・散歩に行きたいとおっしゃると散歩に行く。朝夕2回の方もいる。</p> <p>・部屋に一人でいたい方が落ち着かない人は、特製CDを作成し、一緒に歌っていただいたり、編み物をしたり出来るよう支援している。</p> <p>・入浴も寝る前にしたい方には機会を設ける。</p>	<p>・引き続き、一人一人の日々の生活が充実するよう工夫していく。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>・美容院へ長時間出かけることが難しい方が多いので、3ヶ月に1回程度、同じ美容師さんに継続して来ていただいている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・好みに合わせた献立の工夫をしている。味覚が低下しているため、見た目にも楽しめる工夫をしている。</p> <p>・美味しいと感じやすい甘味は強くしている。</p> <p>・家事当番表を入居者会議で決め、全入居者が家事に参加する体制を用意している。その他希望により随時参加できる。</p> <p>・本人の状態に合わせて職員と一対一で食べる等食事の場を柔軟に設けている。</p>	<p>・今後も一層の充実を図る。</p> <p>・食事中も、ただ食べるだけでなく、会話や楽しいという気持ち、安心な気持ちなどのケアの場面であることを職員全員が認識しケアに当たる。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・コーヒーなど、好きな物は(美味しいと感じられるよう)甘くしていつでもお出ししている。糖分摂取過剰が心配な方には、ローカロリーの甘味料を活用している。</p> <p>・皆で喫茶店に出かけたときは甘い物を思う存分楽しんでいただいている。</p>	<p>・糖尿病や高血圧など健康状態とのかねあいが難しいが、メリハリを付けながら、なるべく今までの嗜好品を楽しむことができるよう支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>・排泄の失敗による不快感を感じることなく、また、オムツの使用も極力減らし、一人一人の残存能力や排泄パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄出来るよう支援している。(その方に合った排泄時間に合わせたトイレ誘導など。)</p>	<p>・今後、今まで自立してきた方が出来なくなっていく時に、支援していく方法を研究していきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・一人一人の希望や身体状況に合わせて、時間帯や回数、入浴の形態、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるよう支援している。</p>	<p>・今後、身体機能や認知機能の低下が進行した場合でも、安心して、気持ちよく入浴を楽しめるよう支援していく方法を研究していきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>・片足を切断している方には、長時間の車椅子での座位の保持による負担を軽減するため1日に一度は横臥できるよう支援している。 ・本人が希望すればいつでも横になれるようさりげなく声かけ、見守りをしている。</p>	<p>・共有スペースには、横になれるソファがあるものの、より安定し安心して休息、仮眠ができるスペース(例えばたたみコーナーを設けるなど)確保を検討している。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・1日に一度はみんなで歌を歌う機会を設けている。 ・「洗濯物を干す」場合でも、座ったままで出来る仕事(分別して広げる)、立ってハンガーにかける、小物干しにかける、竿に干すなど、一人一人が出来ることに応じて家事に参加出来るよう支援している。</p>	<p>・これまでの情報にとらわれず、その人が楽しめることを日々探求する姿勢を忘れずに、支援に活かしていくよう努めていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・財布を携帯することで安心される方には、いつも手元に財布が確認出来るようにしている。 ・お財布を職員に預けていることを常に確認する方には、どの職員に尋ねても安心出来る答えを得られるよう支援している。 ・財布から1万円札を出して、「皆さんにおそばを」など実現が困難な提案をされた場合にも、本人の気持ちを尊重し誠意を持って対応している。</p>	<p>・今後、新しく入居した方が、お財布が手元にないことについて、どのように対応するか、その都度その方の状況を考慮して考えていきたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・毎日、散歩に出られるよう支援している。午前中に散歩をしたことを忘れてしまい、午後也希望される場合にも、体調に考慮しながら1日2回の散歩をしていただいている。 ・体調や気候に応じて散歩の時間は10分～40分程度としている。 ・少し遠くまで外出したり皆で外食に出かける機会として月に数回全員又は個別にドライブをしている。</p>	<p>・左記継続</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>・歩ける方は鎌倉市の観光バスツアーに参加していただいた。 ・歌(唱歌やクラシックなど)が好きな方には、「歌のサロン」に参加していただいている。 ・信仰をお持ちの方には月に1回程度教会に行く機会を作っている。</p>	<p>・流行歌などが好きな方を近隣の高齢者向けのカラオケサロン(健康カラオケ会)にお連れする。 ・三越で買い物をする。 ・鶴岡八幡宮を散歩する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望すれば、いつでも家族に電話出来るよう支援している。 ・Dさんは、母の日の贈り物として家族から届いたお花を写生し、絵手紙にしてお礼状をお送りした。		・日常の活動として描いた絵を絵手紙にしてご家族にお送りし、本人と家族とがやりとりする機会を作っていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・来客の際にも気持ちよく過ごしていただけるよう、明るく居心地がよい空間を保持している。 ・お茶をお出しして、くつろいだ雰囲気作りをしている。 ・ご自分の部屋で過ごしたい方には、その都度椅子を用意する等対応している。		・左記継続
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為については「リーダーの役割」ファイルに提示するとともにミーティングにて説明し、全員に周知し、身体拘束の禁止の意味を全職員が理解して日々のケアに反映させている。		・拘束防止対策委員会を設置した(4月10日)。今後ご家族への承諾書の整備、職員を対象とした勉強会の開催などを行う計画である。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は外からの侵入防止のため施錠してあるが、入居者は内側から解錠することが出来るようになっており、希望者は玄関先いつでも外気浴や日光浴をすることが出来る。 ・解錠の気配や、玄関の網戸に装着した鈴の音により、入居者が外出したことを察知し、すぐに対応出来るよう見守っている。		・多くの入居者は戸締まりを心配されるので、鍵をかけていないことへの不安の解消と、鍵をかけることへの弊害の除去を両立できるよう、検討していく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・1階が共用スペース、2階が居室なので、必要に応じて2階にも職員を配置し、安否確認をしながらケアを行っている。 ・移動が自立していない方についてはママ来てコールやキャッチアップセンサーを利用し、安全確保、移動の自由を確保している。		・左記継続
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・テレビの用途、そのものの意味が判らなくなって、必要がなくなった場合に、コードに引っかかって床に落ちてしまうことがあり、撤去するなど、一人一人の状態に応じて危険を防ぐ取り組みを行っている。		・左記継続
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒防止のため、キャッチアップセンサーを利用している。 ・一人でも外出してしまう方には、衣服の裏に連絡先を書いた小さい布を目立たないように装着している。 ・ヒアラーハットを年度ごとに分析し、事故の発生状況や必要な対策を確認している。		・事故防止委員会を設置した(4月10日)。ヒアラーハットの分析や結果の職員への周知、事故防止のための具体的な取り組みの検討などを行っていく計画である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 骨折時、応急処置として段ボールを利用して添え木をしたことは、適切な処置であったと搬送先の医師からも評価された。 心臓病、糖尿病、呼吸器疾患の罹患の方への処置について、看護師の指導の元で学んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、看護師による勉強会を定期的の実施していきたい。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に防災訓練をしている。訓練時には日常は階段を使用しない方も、身体機能的に問題のない方は階段を下りていただく。 運営推進会議の際に、自治会長の方から、自治会とグループホームとの防災訓練の共同開催を提案していただいた。 近隣に住む職員や顔なじみの商店を通じて、緊急時の協力を得られるよう働きかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会と共同での防災訓練を定期的の実施していく。
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 立位保時困難であることを本人が認識していらっしゃらない方でも、抑制せず、見守りながら対応し、ご家族にも転倒の危険性を説明し、理解を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人一人について把握している個別のリスクを家族に伝え、どのような安全対策をとるか、説明し、同意を得ていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 下痢や便秘などの排泄の情報は速やかに伝達している。 食欲、嚥下の状態に応じて、嚥下補助剤を使用している。 週一回血圧を測定し、平常値を把握するとともに、異変の発見につなげている。口唇色の変化に注意している。 ターミナル期の状態変化に応じて看護師の指導を受けながらホームでの看取りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルケア委員会では、夜間のミーティングにおいて、2月に経験した実際の看取りの振り返り、ターミナルケアについての基本的な理解、施設としてのターミナルケアに対する理念の確認、ご家族へのアンケートや同意書の作成を行った。今後も勉強を続け、ターミナルケアマニュアルを整備する。
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員が服薬状況を確認出来る一覧表を作成し、随時更新している。 下剤等は排泄の状況に合わせ医師の指示の下随時調整している。 精神安定剤、睡眠導入剤などは、その時の状況を十分に見ながら使用するかどうかを検討し、そのことを記録し、医師に報告し診療方針に反映させてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 服薬状況の一覧表は常に最新情報を維持する。 服薬の実施記録を徹底する。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝食前にはその方の体調に応じて乳酸菌飲料をお勧めしている。 食事は野菜、繊維質の物を多く摂れるように献立に工夫している。 運動不足の解消のため、毎日散歩出来るよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 飲食物の工夫については引き続き細かく検討する。 日々の運動については左記継続する。室内でできる運動(タオル体操など)の取り組みも継続する。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2月に経験したターミナルケア実践においても、口腔ケアの必要性を職員全員が再認識し、日々の実践に活かしている。 口臭のある方には、口内洗浄剤を使用している。 義歯は必要に応じて職員が介助し、洗浄を徹底している。また、週一回(月曜の夜)義歯消毒剤を使用出来るよう支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 夕食後(就寝前)の口腔ケアの徹底はほぼ出来ているが、毎食後の実施はなかなか困難である。簡易な方法も含めて、一人一人に合った方法で実施出来るよう検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>・徐々に好みも変わるので、常に摂取状態を見ながら、臨機応変に対応していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>・その他の感染症については、最新の対応の仕方等について看護師を中心に勉強会、マニュアルの整備を行っていく。</p>
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		<p>・左記継続・食品の在庫管理などについては、食事栄養バランス委員会を中心に検討していく。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		<p>・事業所前の竹藪の枯れ枝などを片づけたい。</p> <p>・玄関周りの花の手入れは引き続き行いたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>・左記継続</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		<p>・散歩に出た先で休憩出来るベンチ等が少ないのが課題である。近隣に借りている駐車場の空きスペースに休憩スペースを設けられないか、比較的持ち運びしやすく且つ安全な簡易椅子を探す等、検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		・左記継続 ・その人の状態に合わせて、整理したり、備品を揃えていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		・左記継続
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		・引き続ききめ細かく工夫していく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		・拾おうとしたときの転倒を防止するため、床にはゴミが落ちていないようにする。 ・入浴時、のぼせないよう砂時計(3分計)を活用する。 ・「次にご家族が来る日」など、最低限必要な情報だけを文字にして示し、混乱しないようにする。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		・左記継続の他、畑仕事が好きの方と一緒に野菜を育てて、収穫や食事の際に楽しむ。 ・建物の前の道路の落ち葉をみんなで掃除する。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 昼間の職員の人数は法定より1～1.5人多く、入居者一人一人のニーズに対応出来るようにしている。
- ・ 入居者一人一人が朝1日を気持ちよく始められ、日中の活動を十分にし、満足して1日を終わり、夜安心して休んでいただけることを目標に日々努力している。
 - ・ 一人一人に合わせた自然な形でのケアを心掛けている。
- ・ 地域との交流の場を大切にし、地域の方々を講師にお招きし、近所の方のボランティアを得て活動している・回想法(グループ・個人)を採り入れている。特に、グループ回想法は、入居者が一堂に会してお互いに話し合う社会的な場を共有することにより、一人一人が満足した時を過ごすことができ、安心してグループホームを自分の居場所として実感していただけることを目標に実施している。